

自分の表したいことを追求し、

つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習

## I 図画工作科研究の方向性

### 1 主題設定の理由

図画工作科では、造形的な見方・考え方を働かせながら主体的に活動に取り組むことで「生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力」を育むことを目指しています。これらの資質・能力を高めるには、表現と鑑賞の活動を相互に関連させ、互いを補うことが大切とされています。造形に関わる多様な経験をすることにより、感性が生まれ、様々な場面で色や形などと関わりながら楽しく豊かな生活を創造しようとするにつながります。

これまでの研究では、造形的な視点を児童にもたせるための試しの活動の工夫や、活動の中での「見ること」を重視し、鑑賞したことを表現に生かすための工夫をしてきました。その成果として、児童は題材における造形的な視点に気付くことができるようになりました。

本校の児童は、「図画工作科の学習を楽しい。」と感じている割合が98%と多く、学習に意欲的に取り組んでいると言えます。一方で、「表現活動を行う上で困るのはどんなときか。」という質問に対して、「何をしようか決められないとき」「途中まで作ったが自分の思った通りにできないとき」という回答が多く見られ、「発想や構想」と「技能」の面でつまずきを感じていることが分かりました。

全体研究主題では、「探究する子供を育てる教育活動の創造」をテーマとしています。図画工作科では、自分の思いや考えを大切に、表したり鑑賞したりすることが大切です。「発想や構想」「技能」「鑑賞」のそれぞれの能力を相互に関連させ、つくりかえながら自分の思いを表すことで、自分にとっての意味や価値を見いだす姿を図画工作における探究する姿と捉えました。

以上のことから、研究主題を「自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう図画工作科の学習」と設定しました。鑑賞や表現において、一度の表現で安易に完結させるのではなく、必要に応じて更新させていくことが「つくりだす喜び」につながると考えます。自分が見たことや他者等との関わり、学びの過程を行きつ戻りつする中で、自分にとっての意味や価値を追求し、つくりだす喜びを感じられる学習を目指しました。

### 2 目指す児童の姿とその具体

自分の表したいことを追求し、つくりだす喜びを味わう児童

「自分の表したいことを追求し」とは、題材の始めに考えた発想や構想を基につくるだけでなく、つくったり見たりする中で、自分の表したいことや表し方を変化させたり新しくしたりしていくことです。形や色などから新たなことを思い付いて試す、他者との交流を通して思ったことを基に表現を工夫する、イメージに近付けるために表現方法を工夫するなど、よりよいものを追求めようとする姿を目指しました。

「つくりだす喜びを味わう」とは、感性を働かせながら、作品などをつくったり見たりすることそのものが、児童にとって喜びであり、楽しみであることを示しています。自分の存在や成長を感じつつ、新しいものや未知の世界に向かう楽しさは、友人や身近な社会と関わることで一層満足できるものになります。そのようにして得られた喜びや楽しさが次の造形活動や生活の中で、試行錯誤しながらも自らつくりだしていこうとする態度につながります。

## II 研究内容の具体

### 1 自分の表したいことを追求するための学習過程の充実

鑑賞で材料や作品、自分のつくりつつあるもの、出来事などを形や色などの視点で捉え、表現に生かすという活動を繰り返すことが、自分の表したいことを追求することにつながります。そこで、表現や鑑賞を相互に繰り返すように題材を構成するとともに、その中でも個人の活動が行きつ戻りつすることを想定して、具体的な活動を設定しました。

＜例：2年生「たのしく うつつして」＞ 表現（●），鑑賞（☆）

1（導入）1時間 題材のめあてや特徴をつかむ	☆ 参考作品と型紙を見たり触ったりする（選択）	● 型紙をつかって試しの活動をする。（選択）
2（展開）3時間 「見る・つくる」を繰り返して、色や形などを工夫して表す	☆ 型紙を使った表現の面白さを交流し、表したいことのイメージをもつ。	● 型紙をつくり、刷る。
	☆ 近くの友人と表現を見合い、様々な表現や思いに気付く。	● つくりかえたり、付け足したりしながら表す。
	☆ 振り返りを記入することで自分の表現を見る。	
	☆ 自分や友人の作品を鑑賞する。	
3（終末）1時間 友人と作品を見合う	☆ 自分や友人の作品を鑑賞する。	

### 2 表したいことを追求するための指導の工夫

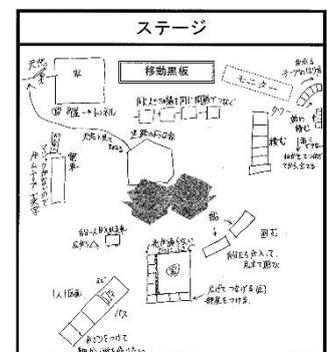
児童が自分の表したいことを追求し、表現を変化させていくためには、教師がそのきっかけを作ることが有効だと考えました。周りとの対話を通して、新たな表現や手立て、見方が増えていきます。表現を変化させていく経験を繰り返すことで、やがて自分自身で表現を追求していく姿につながると考えました。

- ・児童同士の自然発生的な対話を生むための、活動の類似性や進度等に基づいた座席配置、共有材料の設置場所等の工夫
- ・他の児童のよさを自分の作品や表現に取り入れられるよう、児童同士の対話を促す声掛け（「〇〇さんも海をかいているけど色が違うね。」「そこで困っているんだね。〇〇君も同じように切っていたよ。」「他の人の作品を見に行ってみよう。」など）
- ・自分の表したいことや表し方の追求につなげる教師との対話（「この絵のお話を聞かせて。」「今、気に入っているところはどこ？」「色にこだわっているんだね。」「どうやったらできるかな。分かったら教えてね。」など）

### 3 つくりだす喜びにつなげる評価と振り返り

児童が自らの表現で気に入っているところや、こだわったことなどを「マイストーリー」として記録に残していきます。マイストーリーに残す過程で自分の表現の変化を知ったり、よいと思ったことを自覚したりすることが、つくりだす喜びの実感につながります。また、教師が児童の学びを捉えることで、児童の対話を促したり、個別の指導に生かしたりして、児童が自らの表現を更に追求できるようになると考えました。

マイストーリーの記録（児童）	タブレットを使い、写真や動画などを活用して自分のつくりつつある表現や作品を記録する。
活動の過程に着目した記録（教師）	座席表やフィールドマップを用いて、児童が他の児童や場、材料などと、どのように関わっているのかを記録する。



【フィールドマップ】

#### ＜2年次研究の重点＞

- ・表したいことを追求するための指導の工夫
- ・つくりだす喜びにつなげる評価と振り返り

### Ⅲ 研究実践

## 2年生実践 『だんだん だんボール』

実践のテーマ：材料との出会いから思い付いたことを試し、  
自分なりの表現を追求する図画工作の学習

### 1 研究授業のねらい

本題材は、大きな段ボール箱に対して手や体全体を働かせて関わることで、その特徴を感じたり思い付いた活動を楽しんだりする活動です。段ボールの色や形、児童が感じ取ったイメージを基にしながら造形活動に取り組み、友人と関わりながら楽しむことで自分の活動に価値を見いだしたり、友人の表現の工夫や楽しさを感じ取ったりできるようにすることをねらいとしました。

そこで、導入において材料から特徴やイメージを感じ取るための時間をとり、材料に対するイメージや味わったことなどを共有しました。自分の感じたことが他者に認められることにより、自信をもって活動が進められるようにしました。また、自分と似た活動や違う活動をしている児童を見ることが出来る配置の工夫をしました。児童が自分の表現を見返し、他者との対話や材料との関わりなどを通して自分自身の表現を追求し、つくり、つくりかえ、つくる児童の姿を目指しました。

### 2 題材の指導計画（2時間扱い）

段階	時間	学習内容・学習活動	自分の表したいことを追求する児童の姿
学 ぶ め あ て を も つ	①	◇題材の見通しをもつ ○試しの活動 ・段ボールのイメージをつかむ。 ・材料のイメージやできそうなことを共有する。 ○課題の確認 だんボールをつかって つくろう	・試しの活動や、材料を見たり触ったりしたことを基に、自分が表したいことを考えている。
		○表現 ・段ボールを積んだり、並べたりする。 ・色や形を基に、思い付いたことを試す。 [材料]: 大きめの段ボール, 長方形の板状に切った段ボール ○振り返り ・タブレットで自分の気に入っているところを撮影し、次の見通しをもつ。	・自分の気に入っているところを中心に、記録を残している。
確 かな 追 求 ・ 解 決 ・ ま と め	② 本 時	◇表現の追求 ○相互鑑賞 ○課題の確認 友だちのしていることを見たり、自分のやりたいことを考えたりしながらつくろう。 [新しい材料]: 穴の開いた段ボール, 三角や丸に切られた段ボール, 色のついた段ボール ○表現 ・自分の思いに合わせて、表現をする。 ・友人の活動を見ることで、新しいことを思い付いたり、自分の表現を深めたりする。 ○振り返り ・自分の表現をタブレットで撮影する。 ・互いの表現を見合う。	・自分の表したいことをどのように表すかを考えている。 ・友人の表現を見たり、材料を選んだりしながら、工夫して自分の表現を追求している。

### 3 本時の学習

#### (1) 本時の目標

段ボールに体全体で関わるときの感覚や行為、見合う活動などから発想・構想したことを基にして、つくったりつくりかえたりしながら造形的な活動を楽しむ。

#### (2) 本時の展開（2時間扱いの2時間目）

学習内容と主な学習活動	研究との関わり・留意点
<p>1 前時の想起（5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○前時の活動を振り返る</li> <li>○お互いの表現を見合う。（ロイロノート） <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな活動をしていたか。</li> <li>・色や形などの造形的な視点の確認。</li> <li>・友人の活動で気になったもの。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積む、並べるなどの組合せ方を確認し、自分が今どのような活動を行っているか、他にはどのような手立てがあるのかを確認する。</li> <li>・見合う活動を通して、よいと思う表現や、自分の表現に生かせそうなものを見付ける。</li> </ul>
<p>2 課題の確認</p> <p>友だちのしていることを見たり、自分のやりたいことを考えたりしながらつくろう。</p>	
<p>3 表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の表したいことを見付け、試しながらつくる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい材料を出す。</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="193 947 785 1249" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>児童の姿</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のやりたいことに向けて、表現に没頭する。</li> <li>・友人の活動を見ることで、新しいことを思い付いたり、自分の表現を深めたりする。</li> <li>・自分の活動を離れたところから見る。</li> <li>・新しい材料を使って、表現を深める。</li> </ul> </div> <p>4 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分のつくったものをタブレットで撮影し、共有する。</li> <li>○自分や友人の作ったものを見て、面白さやよさなどを交流する。</li> </ul>	<p>◇<b>児童が表現を追求するための指導の工夫</b></p> <p style="text-align: right;"><b>研究視点 2</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・試しの活動で出された、造形的な視点ごとに大まかにグルーピングをして、表現している時に見合いやすい環境をつくる。（積む、並べる、広げる、囲む、組む）</li> <li>・児童が自らの表現を更に深める教師の関わり。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・追求につなげる声掛け「気に入っているのはどこ。」「これからどうなるの。」「どんなふうにしたいの。」</li> <li>・共感的な声掛け「さっきとはここが変わったんだね。」「人が入れるように工夫したんだね。」</li> <li>・交流を促す声掛け「違う立て方をしてる友達もいたよ。」「つなぎ方を見てこない？」</li> </ul> </li> </ul> <div data-bbox="810 1346 1428 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【知識・技能】</b> 材料や道具などに十分に慣れるとともに、立たせたり、囲んだり、並べたり、中に入ったりするなど手や体全体の感覚などを働かせ、活動を工夫して表している。（知識・技能）</p> <p><b>【思考・判断・表現】</b> 段ボールの形や大きさなどを基に造形的な活動を思い付き、感覚や気持ちを生かしながら、どのように活動するかについて考えている。（発想・構想）</p> </div> <p>◇<b>つくりだす喜びにつなげる評価と振り返り</b></p> <p style="text-align: right;"><b>研究視点 3</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・つくったものを写真で撮り、自分の表現の変化を記録する。（児童）</li> <li>・材料や場、友人とどのように関わっているのかをフィールドマップに記録する。（教師）</li> </ul>
<div data-bbox="193 1825 1423 1899" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>だんボールから思い付いたことが表せたね。</p> </div>	

#### ◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

自分の表したいことを思い付き、材料に関わったり、友人の行為や表現を見たりすることを通して、表し方を工夫し、つくり、つくりかえ、つくっていく姿。

## 4 授業の実際

### 表したいことを追求するための指導の工夫

試しの活動の後、どのような活動ができそうなのか、やってみたいのかを考え、「重ねる」「囲む」などの造形的な視点ごとに大まかな活動場所を決めました。このことにより、自分と似た活動や違う活動を見に行ったり、話を聞きに行ったりする姿を引き出すことができました。

「段ボールタワー」を作ろうとしたグループは、まず、縦に高く積み上げようとしたのですが、思ったより高くすることができませんでした。そこで「あそこでも同じようなことをしているみたいだよ。」と、似た活動をしている別のグループに気付かせる声掛けをしました。2つのグループは、自分たちのつくろうとしているものについての対話を通して、「段ボールを床でつなげてから立てる」という方法を考えました。その後、グループは合流し、より高く、よりまっすぐ立てるためのつなぎ方や組み合わせ方を追求しました。「曲がらないようにもっとガムテープで止めよう。」「下は段ボールをくっつけて大きくしよう。」など、グループ内で対話をしながら自分たちの表現を高めていました。

また、家をつくっていた児童は、友人の活動を見に行き、真似したいところをタブレットで撮影して、自分の表現に取り入れました。似た活動や違う活動を見合ったり、対話をしたりすることで、新たな考えを取り入れる児童の姿が見られました。

一方、自分のやりたいことに没頭している児童に対しては、自分とは違う造形的な視点で活動している児童の活動を見に行ったり、対話をしたりすることに意識を向ける手立てを講じることができませんでした。



【対話を通して表現を追求する児童の姿】

### つくりだす喜びにつなげる評価と振り返り

活動中にタブレットを使って自分のつくりつつある様子を記録し、「マイストーリー」として残せるようにしました。1時間の終わりには、全員が写真を撮って記録することとし、それ以外にも自分が撮りたいときに自由に記録を残してよいこととしました。

児童は、自分がこだわっているところや見てほしい所にフォーカスし、自らのつくる過程を記録しました。振り返りでは、最後に出来上がったものだけではなく、「この時はうまくいかなかったけれど、ここを変えてみたらうまくいった。」というように、マイストーリーを活用することで、自らの活動の過程に着目しながら振り返ることができました。



【マイストーリーによる児童の表現過程の記録】

教師は、評価のために、児童が友人と対話している様子やつくっている様子を写真や動画に記録しました。また、フィールドマップには、それぞれの場所で活動している児童が、他者とどのように関わったかの動線やつくっているものの変化、材料との関わりを記録しました。児童のこだわりやつまづきを把握し、他の児童の表現を見に行くことを促すことで、表現を追求するための手立てとしました。また、結果として残った表現からだけではなく、児童の行為からよさや可能性を発揮している場面を見付け、資質・能力の見取りとして活用しました。

## IV 2年次研究の成果と課題

2年次研究では、「表したいことを追求するための指導の工夫」「つくりだす喜びにつながる評価と振り返り」を重点として、研究を進めました。

### 1 研究の成果

- 造形的な視点ごとに活動場所を設定することで、自分と似た活動や違う活動を見合ったり、児童同士で対話したりする姿を引き出すことができ、表したいことの追求につながりました。
- タブレットを活用してマイストーリーに記録することで、自らの過程に着目したり、自分の気に入っているところや見てほしいところがどこなのかを考えたりすることにつながりました。
- 教師がフィールドマップやつくりつつある様子の記録をすることによって、結果として残った表現だけではなく、造形活動における行為を見取ることができ、児童のマイストーリーと合わせて、様々な観点での評価につながりました。

### 2 今後の課題

- 他の児童の活動や作品を見て、よいと思ったところを自分の作品に取り入れる機会を作るためには、座席配置や共有材料の場所といった環境設定に加え、全体で鑑賞の時間を取ったり、困っているところを他者との対話によって解決できるように教師が関わったりするなど、さらに踏み込んだ指導の工夫が必要です。
- 教師は児童の記録を取り、対話をつなぐことを重視して活動しましたが、資質・能力を伸ばしていくために、見取った児童の実態を生かして、用具の使い方や材料を教師側から提示するなど、一人一人に適応した指導の工夫を考える必要があります。

## V 参考文献

- 小学校学習指導要領解説 図画工作編 文部科学省 日本文教出版 平成29年7月
- 初等教育資料No. 998「特集Ⅱ [図画工作科] 互いのよさや個性などを認め尊重し合うようにする指導」 文部科学省 東洋館出版社 令和元年9月
- 成長する授業—子供と教師をつなぐ図画工作 岡田 京子 東洋館出版社 平成28年12月
- よくわかる図画工作科なっとく新学習指導要領授業への生かし方 小林 貴史 開隆堂 平成29年11月
- 平成29年度版 小学校 新学習指導要領ポイント総整理 図画工作 阿部 宏行 東洋館出版社 平成29年10月
- 学びとしての図画工作 題材のABC 阿部 宏行 日本文教出版 平成30年12月
- 図工を通して子どもがもっと好きになる 評価のABC 阿部 宏行 日本文教出版 令和2年7月
- 小学校学習指導要領図画工作科題材&授業プラン 岡田 京子 明治図書 令和2年10月